

静岡県

土地改良



第6回 静岡県農村の魅力フォトコンテスト 入選作品（静岡市清水区 吉原地先）

○ 年頭のご挨拶	1
○ 令和3年度 秋の叙勲	11
○ 令和3年度 静岡県農林水産業功労者表彰	12
○ 第43回 全国土地改良大会 群馬大会	13
○ 農林水産省・財務省への要請活動	15
○ 令和4年度 農業農村整備予算編成に関する要望活動	17
○ 自民党県連・農林水産対策連絡協議会	17
○ 農業農村整備の集い	19
○ 令和3年度 農林水産関係補正予算	21
○ 令和3年度 複式簿記（実践編）研修会	26
○ インボイス制度が導入されます	26
○ 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2021	27
○ ふじのくに美しく品格のある邑	29
○ 行事（令和4年1月～3月）	31



みどり
水土里 ネット 静岡

静岡県土地改良事業団体連合会

年頭のご挨拶



水土里ネット静岡
(静岡県土地改良事業団体連合会)

会長 伊東 真英

令和4年の年頭に当たり、静岡県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃は、本会の運営並びに所管事業の推進につきまして、多大なご理解とご協力を賜っておりますことに衷心よりお礼申し上げます。

さて、昨年、猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、現在沈静していますが、変異ウイルスの拡大など注意が必要な状況が続いています。また、自然災害が激甚化、頻発化しており、これに対して、昨年、「特定都市河川浸水被害対策法の一部を改正する法律」(通称「流域治水関連法」)が施行され、新たな防災・減災、国土強靱化対策が推進されることとなりました。

一方、新型コロナ禍の中で新しい生活様式への移行が進められていることや農村回帰志向が高まっていること、TPP加盟を巡る新たな動きなど農業のグローバル化が進展していること、地球環境問題が深刻化していることなど農業農村を取り巻く環境が変化しており、こうした状況を背景に、国では、昨年度策定した「土地改良長期計画」に基づき、農業の競争力強化、農村の振興、農村の防災力強化に加え、それを支えるための土地改良区の体制強化を図るための新たな施策展開を進めています。

本県におきましても、こうした情勢の変化を見据えながら、次期「農業農村整備みらいプラン」の策定作業に取り組んでおり、農地の集積・集約化や、ICTを活用した水管理などスマート農業の導入による省力化、水田の汎用化等の推進による高収益作物への転換、樹園地の区画整理、農道整備等による生産性の向上など生産基盤の強化を図るとともに、農村の振興に資する生活環境等の整備を進めています。

また、農業水利施設の適切な更新整備、農業用ため池等の緊急改築などを引き続き行うとともに、水田や農業水利施設を活用した流域治水の取組を進め、農業・農村の強靱化を図ることとしています。

さらに、こうした施策を推進するため、多面的機能支払制度などによる地域の共同活動の促進にも努めています。

このような取組が進む一方、農業農村の現場では、農業者の高齢化や減少が進行し、営農の継続、農地の保全が困難になるなど地域を守り育てる活力が減退し、厳しい現実直面しています。

また、市町においては、事業等の経験のある農業土木技術者が減少し、このことが、農地、農業用施設の整備や災害復旧の遅れに繋がっています。

これは、土地改良区においても同様であることから、近年、土地改良区の体制や財務基盤の強化などを目的に土地改良法の改正等が行われ、本県では、巡回による支援に努めているところです。

市町及び土地改良区におかれましては、農業競争力の強化、農業用施設の適正管理、農村の強靱化等を進めるため、技術力向上や体制強化を行い、自らが主体となって積極的に基盤整備に取り組むようお願いいたします。

とりわけ、防災重点ため池などを短期的かつ集中的な改修整備、老朽水利施設の適時適切な更新整備と併せた営農環境の変化に対応する施設整備の推進、農地の集積・集約化を促す人・農地プランの策定による具体的な基盤整備への誘導、地域ぐるみで農地、農業用施設などの保全管理を行う多面的機能支払活動組織に対する支援などに土地改良区が積極的に参加していくことが喫緊の課題となっています。

そのためには、市町にも、農業農村整備に精通し、高度な技術力を有し、地域の要請に的確に対応できる技術者が必要であります。

国は、地財措置の拡充や負担割合を定めたガイドラインの設定等の制度拡充に加え、発注者が行う一連の業務を本会が一体的に支援する制度の整備も進め、市町や土地改良区等が事業主体となる団体営事業の促進を図っています。

本会におきましても、会員の皆様の技術力向上を支援するとともに、発注者支援などにも取り組んでまいりますので、団体営事業の積極的な活用をお願いいたします。

結びに、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げまして、新年の挨拶と致します。

令和 4 年 知事年頭挨拶



静岡県知事
川勝 平太

皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年もコロナ禍の一年となりました。医療従事者をはじめ、皆様には感染防止に一丸となって取り組んでいただき、感謝申し上げます。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に開催県として貢献できた一方、熱海市伊豆山の土石流災害にも見舞われました。

今年は、新しい総合計画を策定します。「東京時代から静岡時代へ」をスローガンに、具体策を講じながら、県民幸福度の最大化を目指し、誰一人取り残さない富国有徳の美しい“ふじのくに”づくりを推進します。

最優先する政策は命を守る危機管理です。防災だけでなく防疫を加えた防災・防疫がこれからの本県の危機管理の2本柱です。

防災については、地震・津波・台風・集中豪雨などへの対策を一段と強化します。特に県内の盛土の危険箇所を徹底調査し、厳格な規定を盛り込んだ条例を制定します。防疫については、新型コロナに対する医療提供体制の充実を図り、今後の感染症の流行も視野に入れ、感染症対策の拠点施設の設置を検討しています。

経済政策については、昨年来の「生産と消費の新しい好循環」を創出する「フジノミクス」を充実させます。短期政策として、大きな打撃を受けた飲食・観光産業を励ますため、DXをフルに活用して、食文化と観光とを一体化させた「ガストロノミーツーリズム」を、山梨・長野・新潟の三県と連携した「バイ・山の^{やま}洲^{くに}」で推進します。中期政策として、本県の医薬品・医療機器生産金額が十年連続全国一であり、かつ健康寿命が世界トップクラスであるという地域特性を生かし、ヘルスとウェルスを一体化させる医療健康産業をリーディング産業に育てあげます。中長期的な政策として、脱炭素とSDGsを実現する地域循環共生圏を地域ごとにつくり上げます。

スポーツ・文化政策については、本県開催の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の自転車競技」と「ラグビーワールドカップ2019」の成功を未来につな

ぐレガシーに昇華させるため、今年稼働する「スポーツコミッション」と昨年設置した「アーツカウンスル」という二つの推進母体によって、スポーツの聖地と文化芸術の花咲く地域を目指します。

静岡県は富士山をはじめ豊かな自然に抱かれています。白雪は溶けて清冽な水になります—

富士の ^{いくとせ}幾年くぐる ^{しらゆき}白雪の ^{きよ}清き ^{みずわ}水湧く ^{かきたがわ}柿田川かな

という歌にあるように、霊峰に降る白雪は美しい水の循環のシンボルです。富士山や南アルプスなど世界クラスの絶景を擁する私たちは改めて自然のもたらす恵みとともに「水」について考え、見直す一年にいたしましょう。

結びに、今年一年の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

新年にあたって



全国水土里ネット
(全国土地改良事業団体連合会)

会長 二階 俊博

令和4年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界各国で拡大する中で、新しい年を迎えることとなりました。我が国では、ワクチン接種が進み感染者数は減少しているものの、世界的には変異株の感染が拡大し予断を許さない状況が続いております。

皆様には、感染防止のためにできることを今一度ご確認いただき、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っております。

さて、昨年3月に新たな土地改良長期計画が策定され、三つの政策課題に取り組むこととされました。生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、農業・農村の強靱化といった政策課題に対して具体の施策が定められ、中でもスマート農業実装の加速化、ため池の防災対策の集中的かつ計画的な推進、流域治水の推進は、今後の農業農村整備を進める上で大事な要素となってくるものです。

令和4年度予算につきましては、これらの政策課題の解決に向け、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,468億円を確保することができました。この結果、令和3年度の補正予算を含めると6,300億円となります。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

一方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても土地改良区等の女性理事登用が成果目標とされたところであり、我々、土地改良団体においても将来の組織体制強化のためにも、女性参画を進めていかなければなりません。

私たち土地改良に携わる者としましては、政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におき農業農村の振興に積極的に貢献していくことが重要であると考えております。また、農業農村の維持、発展に大きく貢献していることについて広く国民の皆様々にアピールし、共感を得ていく努力も必要であります。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう引き続き奮闘して参りたいと思います。

また、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員が元気に全国を飛び回り、まさに「車の両輪」となって活躍されています。本年は進藤さんの2回目の闘いとなりますが、今後は、進藤さん、宮崎さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、静岡県の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。本年も何卒宜しくお願い致します。

私も皆様にご支援をいただき国政に送り出していただいてから、早5年半が過ぎました。土地改良予算の動向を報告し、私なりの政治スタイルを再確認しながら次のステップを展望してみたいと思います。

昨年末には、令和3年度補正予算が臨時国会において可決、成立しました。土地改良予算は、総額1,832億円（TPP等対策：774億円、米対策：46億円、国土強靱化5か年加速化対策：1,012億円）です。令和4年度当初予算政府原案での土地改良予算は4,468億円（令和4年度からデジタル庁計上となる政府情報システム予算を含む。）であり、令和4年度の予算額は補正と当初を合わせて6,300億円となり、本年度と同水準の予算が確保できる見通しとなりました。

主な事業制度の新規・拡充事項としては、○農家負担がゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の工種に農業水利施設や農道、暗渠排水等を追加（現在は区画整理と農地造成のみ）、○「農地耕作条件改善事業」の助成対象に除草機器を追加、○省エネ化・再エネ利用に取り組む「かんがい排水事業」の事業費要件や末端要件を緩和、○「農地耕作条件改善事業」等の助成対象に田んぼダム導入に係る調整活動や畦畔補強等を追加、○「土地改良施設維持管理適正化事業」に「防災減災機能等強化対策」（防災・減災機能の強化、施設管理の省エネ・再エネ利用や省力化を図るための施設整備）を新設（国費率を従来の30%から50%に嵩上げ）、○「土地改良区体制強化事業」の助成対象に小規模土地改良区の業務再編を追加することなどが挙げられます。

私は、これまで全国津々浦々を訪問し、現場の実情を視て、現場の声を聴いて、それらを国政の場に届け、課題解決の実現に努めて参りました。私自身、現場目線、国民目線での政治こそが、いま強く求められていると痛感しています。こうした活動が事業制度の新規・拡充要求に繋がっているものと確信しています。静岡県内にも度々訪問し、色々なご指摘や多くの要請をいただきました。こうした現場の声を真摯にお聴きし、改善できるものはすぐに改善し、事業制度の新規・拡充に繋げる必要があるものは

次年度の予算要求に反映できるように更に努力して参ります。

全国各地の農業・農村は多様であり、それ故に各種要請の内容も多様です。引き続き同志の宮崎雅夫議員と力を合わせ、必要な予算の確保とともに、現場の課題解決に直結する制度構築等に全力で取り組んで参ります。今後とも、これまでの政治スタイルとスタンスを変えることなく、泥臭く鈍重でも、急峻な斜面を一步一步踏み締めて前進する牛のように精進し、現場が抱えている課題を一つでも多く解決できるように結果を出して参る所存です。

皆様からお預かりした参議院議員の任期も残すところ7か月余りとなりましたが、まずは貴重な任期を一日たりとも無駄にすることなく政治活動に全力投球して参ります。そして、次のステップに進むためには改選という高く厚い壁を超えなければなりません。私自身、この壁の突破に専心努力して参る覚悟ですので、皆様の引き続きのご指導とご支援を心からお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしております。

年頭のご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問
農林水産大臣政務官
参議院議員 宮崎 まさお

静岡県土地改良事業団体連合会会員各位ならびに関係の皆様にご挨拶申し上げます。また、旧年中は私の政治活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

昨年10月に発足した岸田内閣ならびに11月発足の第二次岸田内閣において、農林水産大臣政務官を拝命いたしました。これも偏に静岡県の皆様ならびに、進藤金日子参議院議員はじめ先輩国会議員のご指導とご支援によるものであり、本年も新たな気持ちで現場主義に徹しつつ皆様のご意見をお伺いしながら一層努力して参る所存ですので、引き続きご指導くださいますようお願いいたします。

さて、ここ2年に亘って農林水産業をはじめ各方面に影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、国民の皆様のご協力によって、昨秋以降の感染者数は低位に推移しています。しかしながら、新たな変異株による感染の拡大も懸念される昨今の状況からは決して油断することはできません。

経済安全保障の重要性が叫ばれる中、食料の多くを輸入に頼る我が国にとって食料安全保障の確立は非常に重要な課題であり、そのためには我が国の農林水産業の持続的発展が不可欠です。

こうした中、昨年末には皆様のご協力により、令和4年度当初予算案が閣議決定されるとともに、臨時国会において令和3年度第1次補正予算が成立し、農業農村整備事業の関連予算として合計6,300億円を確保することができました。

令和4年度当初予算においては、前年度当初予算を上回る4,468億円が計上され、ほ場の大区画化等の生産基盤整備の推進、近年の激甚化・頻発化する自然災害に対応する、ため池整備、流域治水など、防災・減災、国土強靱化対策の加速化、さらには、農業水利施設等の老朽化対策等を図ることとしており、また、令和3年度補正予算においては、TPP対策の推進や防災・減災、国土強靱化対策を加速するため1,832億円が計上されており、全国の皆様のご要望にしっかりと応えすることができる規模となっています。

さらに、これから国会で議論される令和4年度当初予算においては、農林水産業の発展や農山漁村の活性化等に必要な土地改良を着実に推進するため、予算に関連する制度改革を行うこととしており、主な事項としては、これまで地震対策のみ対象としていた、ため池等の急施の防災事業について、豪雨対策としても実施できるようにすること、農地中間管理機構が行う区画整理事業の対象工種に農業用水路や農道を追加すること、市町村や土地改良区による防災対策事業の機動的な実施のため、土地改良事業団体連合会が必要な資金調達や技術支援を提供できるようにすること、また、組織の維持が困難となった小規模な土地改良区において、法人格を維持しながら認可地縁団体等に移行できる手続きを設けることなどの土地改良法改正を予定しています。予算と制度が車の両輪となって土地改良の効果が十二分に発現できるよう、引き続き進藤金日子議員とともに頑張ってお参る所存です。

これからも皆様とともに土地改良を推進していくため、もう一つの大切な車の両輪である進藤金日子議員と一緒に国政において取り組んで行けるよう、静岡県の皆様におかれましては格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様お一人おひとりとご家族にとって素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願いいたします。

令和3年度 秋の叙勲

旭日中綬章



太田 順一 氏

元 菊川市長
現 大井川右岸土地改良区 理事長
静岡県土地改良事業団体連合会 理事

旭日双光章



大場 孝侑 氏

現 磐田用水東部土地改良区 副理事

旭日単光章



伊藤 賢二 氏

現 伊東市富戸吉田土地改良区 理事長

旭日単光章



上杉 善久 氏

元 富士根畑そう土地改良区
理事長

令和3年11月3日（水）、長年にわたり地方自治や社会福祉など、様々な分野で貢献してきた方々への功績を讃える、「令和3年度 秋の叙勲」が発令されました。

本県の土地改良関係者からは、功績の内容に着目し顕著な功績を挙げた方に授与される旭日章に、大井川右岸土地改良区理事長の太田順一氏、磐田用水東部土地改良区副理事長の大場孝侑氏、伊東市富戸吉田土地改良区理事長の伊藤賢二氏、元富士根畑そう土地改良区理事長の上杉善久氏が、受章の栄に浴されました。

秋の叙勲・褒章の伝達式は、11月25日（木）と12月3日（金）の2日に分けて静岡県庁で行われ、静岡県知事の川勝平太氏から、受賞者ひとりひとりに勲記と勲章が贈られました。



令和3年度 静岡県農林水産業功労者表彰



川合 巖 氏

現 都田上土地改良区 理事長



山本 雅敏 氏

現 加瀬沢土地改良区 理事長

令和3年11月4日（木）、静岡県庁（静岡市）において、「令和3年度 静岡県農林水産業功労者表彰」が執り行われました。静岡県農林水産業功労者表彰は、本県の農林水産業の生産性の向上、及び農林水産業者の所得増大を図る上で功労のあった個人と団体を表彰するものです。本年度は農業部門23名、林業部門4名、水産業部門3名の計30名が表彰されました。

土地改良関係者からは、都田上土地改良区理事長の川合巖氏と、加瀬沢土地改良区理事長の山本雅敏氏のお二人が、受賞の栄に浴されました。

第43回 全国土地改良大会 群馬大会



令和3年10月6日（水）、群馬県コンベンション施設 Gメッセ群馬（高崎市）において、「第43回 全国土地改良大会 群馬大会」が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて一年延期をしての開催となった本大会は、全国大会史上初のオンライン配信を行い、約 3,000 人以上の土地改良・農業農村整備事業関係者が参加、視聴しました。

開会にあたり、群馬県土地改良事業団体連合会会長の熊川栄氏は、挨拶の中で大会のスローガンの「鶴舞う形 群馬の大地 水土里の未来へ ここから羽ばたいて」を挙げ、「本大会が全国の土地改良関係者にとって、明るい未来に向かって羽ばたいていく契機となるよう願っている」と述べて、大会式典が開幕しました。

次に、主催者として、全国土地改良事業団体連合会会長の二階俊博氏が、群馬県の特徴ある農業の構築のために尽力された先人達と、長年の功績により本大会で表彰を授与される方々への敬意を述べた後、「農家の方々が期待を持って働けるような環境をつくるために、一致団結して闘っていかねばならない」と、土地改良関係者へ訴えました。



続いて、群馬県知事の山本一太氏、高崎市長の富岡賢治氏による歓迎の挨拶、農林水産大臣の金子原二郎氏（代読：農村振興局次長 安部伸治氏）、自由民主党群馬県支部連合会会長の小淵優子氏、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫氏から、来賓祝辞が述べられました。

式典の前段では、土地改良事業功績者表彰が執り行われ、農林水産大臣表彰 6 名、農林水産省農村振興局長表彰 16 名、全国土地改良事業団体連合会長表彰 45 名が荣誉に浴されました。

本県からは、太田川上流部土地改良区副理事長の鈴木晃氏が農林水産省農村振興局長表彰、伊佐見土地改良区理事長で、本会の総括監事である今田欽也氏が、全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞しました。

後段の基調講演では、農林水産省農村振興局次長の安部伸治氏が「未来（あす）の土地改良」と題して、群馬県における土地改良の歴史を交えながら、土地改良をめぐる動きと、国視点での「水・土・里」の未来への取組みを紹介しました。続いて行われた全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子氏による講演では、“闘う土地改良”を掲げて邁進してきたこれまでの実績と、今後の土地改良事業の方向性が語られました。

最後に、群馬県立吾妻中央高等学校環境工学科の生徒が、新しい時代の土地改良へ向けて進んでいくことを表明する大会宣言を力強く行い、次期開催県の沖縄県に大会旗の代わりに目録がネットワークを通じて引継がれ、大会は盛況のうちに幕を閉じました。



— 本県の土地改良事業功労者表彰者 —

農林水産省
農村振興局長表彰



鈴木 晃 氏

太田川上流部土地改良区 副理事長

全国土地改良事業
団体連合会長表彰



今田 欽也 氏

伊佐見土地改良区 理事長
静岡県土地改良事業団体連合会 総括監事

農林水産省・財務省への要請活動



令和 3 年 10 月 25 日（月）、東京都内において、農林水産省と財務省に対して「農業農村整備に係る令和 3 年度補正予算及び令和 4 年度当初予算編成に関する要請活動」を行いました。

1. 農業の競争力強化の推進について

- (1) 農業の力強い発展を目指した基盤整備の推進
- (2) 農地中間管理機構関連農地整備事業の要件緩和と制度拡充

- ① 樹園地の区画拡大・平坦化、水田の汎用化・畑地化、高次世代型施設園芸等を進めるための安定的な予算の確保
- ② 茶園や傾斜畑地における農地中間管理機構関連農地整備事業の下限面積要件の緩和
- ③ 農地中間管理機構関連農地整備事業及び農地耕作条件改善事業の工種の拡充

2. 基幹農業水利施設の着実な更新整備と長寿命化対策について

- (1) 基幹農業水利施設の着実な更新整備と長寿命化対策
- (2) DXを活用した農業水利施設の省力化対策

- ① 基幹農業水利施設の長寿命化や耐震化、省力化を進めるための安定的な予算の確保
- ② 土地改良区等の体制強化、農業の成長産業化を図るための農業 DX の取組への支援

3. 農村地域の国土強靱化の推進について

- (1) 農業用施設の防災減災対策
- (2) 市町村・土地改良事業団体連合会支援のための財源確保

- ① 県民の生命と財産を守るため、農村地域防災減災事業の安定的な予算確保
- ② 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の2年目以降の十分な予算の確保
- ③ 豪雨災害等に対応した農業水利施設の計画的かつ効率的な補修・更新に向け、ドローンやICT等を活用した機能診断や保全計画策定等を行うための予算の確保
- ④ 土地改良事業団体連合会に職員を派遣依頼する市町の人件費に対する支援制度、市町等が確保困難な技術職員を土地改良事業団体連合会で増員した場合の財政支援の創設

4. 流域治水に向けた取組の制度拡充について

- (1) 「流域治水」に取り組む土地改良区等への支援
- (2) 既存ダムの洪水調節機能強化の取組に係る土地改良区等への支援

- ① 農業水利施設、利水ダム、農業用ため池等の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担が生じないように、施設の整備や管理について支援制度の拡充
- ② 利水ダムの事前放流後、ダム貯水位が回復しなかった場合、取水の柔軟な運用や損失補填制度の創設などの実現に向けた支援

5. 多面的機能支払交付金の制度拡充について

- ① 計画的かつ効率的な実施のための更なる予算の確保と制度の拡充
- ② 農業者にとって取り組み易い制度や事務手続きの一層の簡素化

6. 土地改良区体制強化対策の充実について

- ① 合併や土地改良区連合の設立が困難な土地改良区に対する体制強化対策の充実

7. 土地改良施設維持管理適正化事業の予算拡大について

- ① 土地改良施設の適時適切な維持管理を図るための予算の増額と制度の拡充
- ② 「みどりの食料システム戦略」に記載の防災・減災対策、農業水利施設の省エネ化、ICTによる施設管理の省力化・高度化に資する整備補修を促進するための、制度の拡充と支援の充実

8. 農業用水を活用した脱炭素化の推進について

- ① CO₂ゼロエミッション化の実現に向けた農業水利施設を活用した小水力発電施設の導入及び管理・運用への支援

令和4年度 農業農村整備予算編成に関する要望活動



静岡県副知事 難波 喬司 氏



静岡県議会 議長 宮沢 正美 氏
副議長 竹内 良訓 氏



静岡県 経済産業部
農林水産担当部長 細谷 勝彦 氏

令和3年11月5日（金）、静岡県庁において、静岡県に対して、「令和4年度 農業農村整備予算編成に関する要望活動」を行いました。

自民党県連・農林水産対策連絡協議会

令和3年11月5日（金）、静岡商工会議所 静岡事務所会館（静岡市）において、「自民党県連・農林水産対策連絡協議会」が開催されました。本協議会は、県内各界各層の農林水産業関係者の要望を来年度予算に反映させるため、毎年自民党静岡県連が予算編成期に行っています。

今回は静岡県の農業・農村が置かれている現状と課題を本会から説明した後、牧之原畑地総合整備土地改良区理事長の染谷絹代氏と、浜名湖北部用土地改良区常務理事の内山雅昭氏から、生産基盤整備の現場の動きを交えて、要望説明がされました。



1. 農業の競争力強化の推進について

- ① 樹園地の区画拡大・平坦化、水田の汎用化・畑地化、高次世代型施設園芸等を進めるための安定的な予算の確保
- ② 農地中間管理機構関連農地整備事業の安定的な予算の確保

2. 基幹農業水利施設の着実な更新整備と長寿命化対策について

- (1) 基幹農業水利施設の着実な更新整備と長寿命化対策
- (2) D Xを活用した農業水利施設の省力化対策

- ① 基幹農業水利施設の長寿命化や耐震化、省力化を進めるための安定的な予算の確保
- ② 土地改良区等の体制強化、農業の成長産業化を図るための農業 D X の取組への支援

3. 農村地域の国土強靱化の推進について

- ① 県民の生命と財産を守るため、農村地域防災減災事業の安定的な予算確保
- ② 豪雨災害等に対応した農業水利施設の計画的かつ効率的な補修・更新に向け、ドローンや I C T等を活用した機能診断や保全計画策定等を行うための予算の確保

4. 流域治水に向けた取組の制度拡充について

- ① 流域治水の推進に資する農業用施設の整備や操作管理を実施するための予算の安定的な確保

5. 土地改良施設維持管理適正化事業の予算確保について

- ① 土地改良施設の適時適切な維持管理を図るため、維持管理適正化事業の予算の増額
- ② 国の「みどりの食料システム戦略」の推進のため、防災・減災対策、農業水利施設の省エネ化、I C Tによる施設管理の省力化・高度化に資する整備補修予算の確保

6. 多面的機能支払交付金の制度拡充について

- ① 計画的かつ効率的な実施のための更なる予算の確保と制度の拡充
- ② 農業者にとって取り組み易い制度や事務手続きの一層の簡素化

農業農村整備の集い

令和3年11月16日（火）、砂防会館別館シェーンバッハ・サボー（東京都）において、「農業農村整備の集い」が開催されました。

本会は、全国の農業農村整備に携わる関係者が一堂に会して、現場で直面している喫緊の課題を共有・再認識し、諸課題に緊急に対応すべく、農業農村整備事業の一層の充実と推進を期することを目的に開催されています。新型コロナウイルス感染症の感染対策体制を万全にして臨まれた集いには、国会議員を含めた約600名が参集しました。

開会にあたり、全国土地改良事業団体連合会会長の二階俊博氏は、挨拶の中で「闘う土地改良」は限りなく続くと述べ、「これまで培ってきた技術と経験を最大限に発揮し、農家の方々が期待を持って働けるような環境をつくるために、我々は一致団結して闘っていかなければならない」と強く訴えました。

続いて、農林水産大臣の金子原二郎氏、自民党のTPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長の森山裕氏、公明党幹事長の石井啓一氏、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子氏から祝辞があり、農業農村整備事業が今置かれている状況を鑑み、農を守り、地方を創る農業農村整備のための予算の確保と推進への尽力を誓いました。

また今回の集いでは、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、やまぐち水土里ネット女性の会初代会長の故・藤井チエ子氏と、日本ひなた女子会会長の奥村千扶子氏への感謝状授与式が行われ、両氏へ二階氏から感謝状が授与されました。

その後、要請案文を来年の全国土地改良大会開催主催である、沖縄県土地改良事業団体連合会会長の古謝景春氏が読み上げ、全会一致で採択となり、最後に参加者一堂によるガンバロウ三唱で閉会しました。



— 要請書（要約版） —

- 一 土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算において、必要な予算を確保すること。

- 二 大規模災害からの復旧・復興を早急に進めること。その際、原形復旧に止まらず、再度災害防止の措置を講じるとともに事務手続の簡素化に取り組むこと。
- 三 食料安定供給の確保、スマート農業の実装、高収益作物への転換、米の需給安定のための麦・大豆の生産拡大、農産物の輸出促進等を図るため、農地集積・集約化を促す農地の大区画化と水田の畑地化・汎用化を一層推進すること。
- 四 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の長寿命化、豪雨・耐震化対策等を一層推進すること。
併せて、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策については、2年目以降も1年目と同様に十分な予算を確保すること。
また、「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」及び「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」に基づき、技術的・財政的支援を講ずること。
- 五 複式簿記の導入など組織運営基盤の強化に対する支援を、水土里ネットの声に真摯に耳を傾けて推進すること。
- 六 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設等の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担及び責任が生じないように配慮すること。
- 七 安全・安心で快適な生活環境を確保するため、農業集落排水施設や農道等の生活インフラの再編・強靱化、農村地域の情報通信環境の整備を推進すること。
- 八 本年5月に農林水産省が公表した「人・農地など関連施策の見直し」に掲げられた土地改良制度の拡充（ため池等の豪雨対策、農地・農業水利施設の整備等に対する農家負担の軽減を含む支援、市町村や土地改良区を連合会がサポートする仕組み等）を令和4年度予算の成立に合わせて具体化すること。
- 九 新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、必要に応じ、農業水利施設の維持管理に関するセーフティネットを構築すること。
- 十 上記事項の実施に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

令和3年度 農林水産関係補正予算

農林水産省の令和3年度農林水産関係補正予算が、11月26日（金）に閣議決定されました。総額が8,795億円（公共：3,716億円、非公共：5,079億円）、うちTPP等関係対策が3,200億円となっています。

1 「総合的なTPP等関係制作大綱」に基づく施策の実施

(1) 2030年輸出5兆円目標の実現に向けた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」の実施

① オールジャパンでのマーケットイン輸出の取組強化	68億円
② 海外での輸出支援体制の確立	22億円
③ 輸出産地・事業者の育成・展開	
（グローバル産地づくり緊急対策）	17億円
（農林水産物・食品の輸出事業者等へのリスクマネー緊急対策）	50億円
④ 一貫したコールドチェーンによる輸出物流の構築	5億円
⑤ 畜産物輸出コンソーシアム推進対策	22億円
⑥ 輸出促進に向けた環境整備	
（輸出環境整備緊急対策等）	10億円
（食品産業の国際競争力強化緊急対策事業）	4億円
⑦ 輸出先国の規制や需要に対応した加工施設等の整備〈一部公共〉	222億円
⑧ 日本の強みを守るための知的財産対策の強化	
（輸出環境整備緊急対策等）	10億円の内数

(2) 国際競争力のある産地イノベーションの促進

① 産地生産基盤パワーアップ事業	310億円
② 水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化等の推進〈公共〉	472億円
③ スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト	49億円
④ 加工施設再編等緊急対策事業	19億円

(3) 畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進

① 畜産クラスター事業 (所要額)	617 億円
② 和牛の増頭等 (増頭奨励金) (所要額)	78 億円
(草地防除雑草駆除技術等実証事業)	5 億円
(畜産環境対策総合支援事業)	18 億円
③ 国産チーズの競争力強化	60 億円
④ 草地整備の推進〈公共〉	47 億円
⑤ 加工施設再編等緊急対策事業 (再掲)	19 億円
⑥ 畜産環境対策総合支援事業	18 億円

(4) 次世代を担う経営感覚に優れた担い手の育成

① 農林水産業の担い手の確保・育成 (新規就農者確保緊急対策)	29 億円
(「緑の雇用」新規就業者育成推進事業)	3 億円
(漁業担い手確保緊急支援事業)	1 億円
(担い手確保・経営強化支援事業)	23 億円
② 女性の活躍推進	2 億円
③ 次世代を担う農林漁業者の生産性向上支援	100 億円
(スマート農林水産業の導入支援)	77 億円
(担い手確保・経営強化支援事業)	23 億円
④ 農地の更なる大区画化・汎用化の推進〈公共〉	255 億円
⑤ 中山間地域所得確保対策 (中山間地域所得確保推進事業)	1 億円
⑥ 鳥獣被害防止総合対策 (鳥獣被害防止総合対策交付金)	16 億円

(5) 合板・製材・構造用集成材等の木材製品の国際競争力の強化

① 木材産業国際競争力・製品供給力強化緊急対策〈一部公共〉	495 億円
-------------------------------	--------

(6) 持続可能な収益性の高い操業体制への転換

① 水産業競争力強化緊急対策	167 億円
----------------	--------

2 米の需給及び価格の安定に向けた対策の実施

① コロナ影響緩和特別対策	165 億円
② 新市場開拓に向けた水田リノベーション事業	420 億円
③ 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト	33 億円
④ 農業農村整備事業における米の臨時特別対策〈公共〉	46 億円
⑤ 水田活用の直接支払交付金	240 億円

3 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた経済支援と食品産業の強化

① 国産農林水産物等販路新規開拓緊急対策事業	200 億円
② コロナ影響緩和特別対策（再掲）	165 億円
③ フードバンク支援緊急対策事業	2 億円
④ 特定水産物供給平準化事業	20 億円
⑤ 人材不足への対応	
（農業労働力確保緊急支援事業）	13 億円
（水産業労働力確保緊急支援事業）	4 億円
⑥ 金融支援対策	2 億円
⑦ 漁業収入安定対策事業	592 億円
⑧ ポストコロナを見据えたサプライチェーンの緊急強化対策	9 億円
⑨ 飲食店支援	601 億円

4 ポストコロナ社会を見据えた農林水産施策の推進

（1）スマート農林水産業の社会実装の加速化

① スマート農業技術の開発・改良と産地実証の推進	
（スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト）	49 億円
（農林水産物・食品の輸出事業者等へのリスクマネー緊急対策）	50 億円の内数
② スマート農林水産業の導入支援（再掲）	77 億円

- | | |
|---|-----------|
| ③ 誰もがスマート農業に取り組める環境整備 〈一部公共〉
（ 農地の更なる大区画化・汎用化の推進 ） | 255 億円の内数 |
| （ 水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化等の推進 ） | 472 億円の内数 |
| （ 新規就農者確保緊急対策 ） | 29 億円の内数 |

(2) eMAFF 等による DX の加速

- | | |
|---|-------|
| ① 農林水産省共通申請サービス（eMAFF）等による行政手続の抜本的効率化の加速
（ デジタル庁計上 ） | 35 億円 |
|---|-------|

(3) 環境負荷軽減に資する「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた政策の推進

- | | |
|------------------------------------|-----------|
| ① みどりの食料システム戦略緊急対策事業 | 25 億円 |
| ② ムーンショット型農林水産研究開発事業 | 30 億円 |
| ③ スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト（再掲） | 49 億円 |
| ④ 産地生産基盤パワーアップ事業（再掲） | 310 億円の内数 |
| ⑤ 畜産環境対策総合支援事業（再掲） | 18 億円 |
| ⑥ フードバンク支援緊急対策事業（再掲） | 2 億円 |
| ⑦ 木材産業国際競争力・製品供給力強化緊急対策 〈一部公共〉（再掲） | 495 億円 |
| ⑧ 水産業競争力強化緊急対策（再掲） | 167 億円 |

(4) 家畜伝染病、病害虫の発生予防対策等の強化

- | | |
|---|-------|
| ① 家畜伝染病・家畜衛生緊急対策 | 55 億円 |
| ② 重要病害虫侵入・まん延防止緊急支援事業 | 9 億円 |
| ③ 持続的畑作生産体系確立緊急対策事業 | 38 億円 |
| ④ 甘味資源作物生産性向上緊急対策事業 | 23 億円 |
| ⑤ 農地耕作条件改善事業
※ 令和 3 年度当初予算の制度拡充による運用 | |
| ⑥ 北海道赤潮対策緊急支援事業 | 15 億円 |

(5) 農林水産業の生産性向上、農山漁村の活性化等の推進

- | | |
|-----------------------|-------|
| ① 農地中間管理機構による農地集約化の加速 | 55 億円 |
| ② 葉たばこ作付転換円滑化緊急対策事業 | 18 億円 |
| ③ 野菜価格安定対策事業 | 72 億円 |

④ 肥料コスト低減体系緊急転換事業	45 億円
⑤ 配合飼料価格高騰緊急対策	230 億円
⑥ 漁業経営セーフティーネット構築事業	89 億円
⑦ 韓国・中国等外国漁業操業対策	30 億円
⑧ 沖縄外国漁業操業対策	20 億円

5 防災・減災、国土強靱化と災害復旧等の推進

(1) 防災・減災、国土強靱化の推進

① 農業水利施設、ため池等の対策〈公共〉	1,012 億円
② 治山施設の設置等による対策	306 億円
③ 森林整備による対策〈公共〉	186 億円
④ 漁業地域の対策〈公共〉	230 億円
⑤ 海岸堤防等の対策〈公共〉	11 億円
⑥ 卸売市場施設の対策	22 億円
⑦ 園芸産地における対策	3 億円

(2) 令和3年8月の大雨等の災害からの復旧・復興

① 災害復旧等事業〈公共〉	836 億円
② 盛土による災害の防止〈公共〉	

※ 農山漁村地域整備交付金（令和3年度当初予算）の制度拡充による運用

各項目の詳細は農林水産省の Web サイトで確認ができます。

⇒ <https://www.maff.go.jp/j/budget/r3hosei.html>

令和3年度 複式簿記（実践編）研修会

令和3年11月12日（金）、静岡県産業経済会館（静岡市）において、「令和3年度 複式簿記（実践編）研修会」を開催しました。今回の研修会には、複式簿記を導入する土地改良区職員等、35名の参加がありました。



前回の基礎編から引き続き、税理士の佐藤大地氏を講師に迎え、「期首会計から決算事務の流れ」や、「年間取引の仕訳紹介」等の説明を行い、参加者から好評をいただきました。

インボイス制度 令和5年10月1日から! が導入されます

軽減税率制度の実施に伴い、令和5年10月1日から消費税の適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入されます。

「**適格請求書（インボイス）**」とは、売手が買手に対して、適用税率や消費税額等を正確に伝えるもので、現行の「**区分記載請求書**」に、

「登録番号」・「適用税率」・「消費税額等」

の記載が**追加**されたものをいいます。

インボイス制度が導入されると、仕入税額控除の要件が変更され、控除の適用を受けるためには、インボイス等の保存が必要となります。

基準期間の課税売上高が1,000万円を超える土地改良区（連合）は、納税義務者となり、消費税の申告及び納付を行う必要があるため、登録申請に向けた準備をしましょう。

令和3年10月1日
登録申請書の受付開始

令和5年3月31日
登録申請書の受付終了

令和5年10月1日
インボイス制度スタート

登録申請受付期間

登録申請書は、令和3年10月1日から提出が可能です。

令和5年10月1日から登録を受けるためには、原則として令和5年3月31日までに登録申請書を提出する必要があります。

国税庁「インボイス制度公表サイト」

<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice.htm>

水土里ネット静岡会長賞



「夕日に染まる棚田」

入選



「キヤー 蛇がヒヨコ狙ってる」

＼ 結果発表 /

「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展

2021

★ 地域団体賞 …… 1 点
(水土里ネット会長賞)

★ 入選 (全国) …… 6 点

★ 佳作 (全国) …… 3 点



「タケノコ掘り 鶏 やぎも一緒だよ」



「田んぼととんぼと青い空」

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2021 へのたくさんのご応募ありがとうございました。
「新発見！わたしたちのふるさと自慢」をテーマに、県内から 110 点の力作がありました。
10 月 7 日 (木)・8 日 (金) に東京都で本審査会が行われ、全国から集まった 4,120 点の作品の中から、静岡県からは 10 点の作品が、選出されました。

佳作



「僕らの楽しいお茶つみ」



「お茶の葉いっぱいお茶畑」



「おたまじゃくしがいっぱい」



「田植えの時期の逆さ富士」



「夏の田んぼ」



「夏の富士山と田んぼ」



東京都美術館で
展示されました

2021年12月4日(土)
～12月11日(土)



ふじのくに
美しく品格のある邑
Charming and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"

— 令和2年度 連合奨励賞 —

縁結びの村 くのわき

地区の宝「縁結びの御薬師様」
60年に一度の大祭の継承と
クラウドファンディングによる修復



一の宮の里

小國神社の下で受け継がれる文化と
風土を守る農村景観保全活動の展開



らびりんすゆうとう

地域の「伝統・文化」を子どもたちに
継承する、楽しく賑やかな邑づくり



えん むす むら 縁結びの村 くのわき

— 川根本町 —

久野脇には身分の違う男女が恋を成就させたという昔話があり、地域の一部は“恋金”と呼ばれています。物語の舞台となった「佐澤薬師堂」の御本尊は、良縁を結ぶ「妻薬師」と称されて古くから親しまれてきました。60年に一度の庚子年には大祭が行われ、御薬師様が集落を渡御して回ります。

久野脇の活性化を目的に集まったメンバーで形成された「くのわき未来の会」は、「婚活ツアー」や「ウォーキングイベント」といった、大井川が生んだ豊かな自然と、“縁結び”に関わりのある地域資源を活かした交流人口拡大の取組みを行っています。

庚子年を迎えた令和2年（2020）には、損傷が進んでいた御本尊を修復し、地域の宝と信仰を60年後の世代へ遺すためのプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングを実施し、成功させました。



佐澤薬師堂と妻薬師



地域の郷土料理研究にも力を入れている

■ 各イベントは、新型コロナウイルス感染症の状況により、急遽変更・中止となる

いち みや さと 一の宮の里

— 森町 —

1400年以上の歴史を持つ遠江國一宮小國神社が鎮座する森町一宮。古くから豊かな自然環境に恵まれ、地域には水田を中心とした美しい農村景観が広がっています。

一の宮の里では「一宮の水と環境を守る会」が中心となり、この景観を守る取組みを行っています。

農村の環境整備のほか、生き物の多様性を育む豊かな環境を活かし、地元小学生を対象とする生き物調査の実施や、シニアクラブによる幼稚園児の農業体験の開催等、地元の人々が地域の愛着心を育むきっかけとなる活動を行ってきました。

長年の活動継続の末、今では地域の暮らしに馴染んだ取組みとして、邑の環境保全は世代を超えた活動へと発展しています。

令和2年(2020)には美しい農村景観や農の営み、小國神社を中心とした地域の歴史と文化の魅力が詰まった動画を制作し、Youtubeでの情報発信もスタートしました。



らびりんすゆうとう

— 浜松市西区 —

雄踏町に伝わる「すココン」は、毎年12月15日の「地の神様の日」に、庭にある「地の神様」の祠にお供えされた円錐形のお赤飯「おもっそ」を、きつねを模した子供達が列を作り「すココンすココンすココンコン、おもっそおくれすココンコン」と歌いながら取っていくという伝統行事です。

「すココン」は長らく途絶えていましたが、雄踏を愛する有志による「地域活性化プロジェクトらびりんすゆうとう」が現代アレンジを加え、「すココン祭」として復活させました。楽しい催しを通し、地元住民の世代を超えた交流が生まれています。

「すココン祭」の他にも、田植えや稲刈り、タケノコ掘り等の体験プログラムを展開し、令和2年(2020)からは田んぼアートにも挑戦しています。現在お祭りはお休み中ですが、雄踏の魅力を発信し続け、地域を更に盛り上げる取組みを行っています。



行事（令和4年1月～3月）

日付	行事内容	場所
1月20日（木）	土地改良区 中堅・女性職員研修会	中遠総合庁舎
1月28日（金）	市町・土地改良区代表者会議	静岡商工会議所
2月10日（木）	水土里ネット静岡 役員研修会	三ヶ日・豊川用水ほか
2月18日（金）	静岡県土連 第3回 理事会	静岡市産学交流センター 「ペガサート」
（予定） 3月18日（金）	第65回 通常総会	グランヒルズ静岡
（予定） 3月24日（木）	全土連 通常総会、 第63回 全国土地改良功労者等表彰	全国都市会館

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、行事の日程や内容に変更が生じる場合があります。変更が発生した際には改めてご案内をいたします。ご了承ください。



水土里ネット静岡（静岡県土地改良事業団体連合会）
ホームページ <http://www.sizdoren.jp>

本部（事務局、総務経理課、会員支援課、事業支援課）

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

TEL (054)255-5151 FAX (054)221-3581

E-mail 総務経理課 soumu@sizdoren.jp

会員支援課 kaiin@sizdoren.jp

事業支援課（事業・水土里）jigyo@sizdoren.jp

（換地）kanchi@sizdoren.jp

東部事業所

〒410-0055 沼津市高島本町1-3

TEL (055)920-2269 FAX (055)920-2192 E-mail toubu@sizdoren.jp

中部事業所

〒422-8031 静岡市駿河区有明町2-20

TEL (054)286-9273 FAX (054)286-9274 E-mail shisetsu@sizdoren.jp

西部事業所

〒438-0086 磐田市見付3599-4

TEL (0538)37-2316 FAX (0538)37-2403 E-mail seibu@sizdoren.jp

発行所：〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県土地改良事業団体連合会